

## 2. 事業の概要と成果

## (1) 上位目標の達成度

上位目標：

トゥア・ティエン・フエ省（以下、フエ省）及び近隣2省における出産可能年齢の女性及び妊産婦から中高年までの女性の生涯にわたる健康の向上、質の良いリプロダクティブヘルス（RH）サービスの提供とモデルづくり

3年間の事業の3つの大きな活動の柱であった、(1) WHC の設立と包括的な RH サービスの提供モデルづくり (2) 助産師の能力強化 (3) 農村遠隔地でのアウトリーチ・サービスの提供の各活動により、女性の生涯にわたる健康のための「安全で質のよい包括的 RH サービス」ならびに「クライアントに優しいサービス」の提供モデルが認知され対象地域の関係者ばかりでなく、中央の保健省や助産師会幹部にもその重要性が理解されてきている。プロジェクト活動の拠点である女性健康センター（WHC）での RH サービス提供のみならず、研修を受けた助産師により、村でも質のよい RH サービスが提供されるようになった。

同時に、ベトナム保健省母子保健局や対象3省保健局、各保健医療施設との連携強化や、ベトナム助産師会の全国ネットワークを通じて、モデルの全国的な普及への基盤を構築することが出来た。

さらに、助産師ハンドブックの制作や、助産師ネットワークの連携強化を通じて、「助産師の役割」としての、女性の生涯にわたる包括的な RH ケアについて保健省を含めた保健関係者に認識を広めることが出来た。

第3年次は、プロジェクト活動の拠点である WHC において、女性にやさしく安全で安心できる正常分娩介助を含む、すべての予定したサービスの提供を開始し、利用者の拡大を図った。WHC は2017年3月にベトナム国健康保険制度に則った保険適用施設として正式に認可を受けた。これにより、人々が少ない負担で WHC でのサービスを受けることが可能となり、利用者数の大幅な増加が実現した。すべての診療科目の合計受診者数は、第2年次1,671人から第3年次は20,330人に増加した。このことは、持続発展に向けた WHC 運営とその安定化を図る上で重要である。また、ベトナム政府の目指す国民皆保険の普及に貢献できた。RH サービスの質の高さやクライアントに優しいサービスの模範となるべく、WHC に勤務する保健スタッフの能力向上のための研修も継続して実施し、WHC で提供される RH サービスの内容と質を担保した。同時に、その内容については対象省をはじめ全国の助産師から注目されている。

より質の高いサービス提供をめざし、3年次も、WHC に勤務する保健スタッフの能力向上のための研修を継続して実施した。乳房ケアなどベトナムでは先進的な母子ケアは、対象省をはじめ全国のベトナム助産師会会員からの関心が高い。WHC 内に併設した研修施設を活用し、プロジェクト3年間で計64名の指導者を育成した。その指導者が講師となり実施した遠隔地農村部の助産師の数は3年次114名であり、3年間で253名になる。また、WHC スタッフが農村部に出向き、研修を受けた郡病院の助産師や CHC の助産師と協働でアウトリーチ・サービス（出張クリニック・健康教育）を実施し、3年間の継続的な活動によって計8,020人の農村遠隔地の女性たちに質のよい RH サービスを届けることが出来た。指導する側とされる側のスタッフ双方の能力強化にもなった。

農村部助産師の能力強化研修や、農村遠隔地へのアウトリーチなどを通じて計253名の助産師がそれぞれの農村遠隔地のコミュニティで提供するサービスの潜在的裨益者は、各コミュニティの女性の人口約720,000人であり、助産サービスに限れば、出産可能年齢の女性約340,000人である。

(2) 事業内容

第3年次の事業計画にしたがい、2017年(平成29年)3月15日～2018年(平成30年)3月31日までに実施された事業内容と経過は以下の通り。  
(別添1. 事業計画・実績対比表 参照)

1. 女性の生涯にわたる健康を向上するための包括的RHケアサービスの提供

1) WHCでの包括的RHサービスの提供

(1) 包括的RHサービスの提供:

WHCでは、2017年3月から健康保険適用認可施設としてサービスを開始し、7月からは正常分娩、産後ケア、乳房ケアのサービスも正式に保険適用下での提供を開始した。これにより、より多くの利用者が健康保険を使い、少ない負担でWHCでのサービスを受けることが可能となった。女性が生涯を通して健康に過ごすための、思春期から中高年の方までを対象にした、予定していたすべての包括的なRHサービスを継続して提供した。

(2) WHCスタッフへの継続研修の実施:

WHCで提供されるサービスが具体的なモデルとなるよう、質のよいRHサービスの提供の一環として、以下のWHCスタッフへの研修を3年次も実施した。

- ① 周産期ケア研修の実施: 妊娠時のリスク判断、周産期における合併症や緊急時の診断技術の向上のための2週間の継続研修を、2017年7月に国立産婦人科病院で実施した。妊産婦の観察・リスク判定・診断技術、使用薬剤、胎児心拍測定器を利用した産前の観察、正常分娩とそれ以外の分娩(ケース)の観察や処置、清潔・不潔の基本的技術、分娩室の準備、など国内トップクラスの専門病院で、様々な知識や技術を習得・アップデートした。11月には研修のフォローアップとして、国立産婦人科病院看護部長の監督のもと、WHC分娩室や陣痛室、回復室の配置や助産師の動線などの再確認を実施した。(別添2. 周産期ケア研修報告概要 参照)
- ② 母子健康手帳活用研修の実施: 2017年9月、WHCで妊産婦健診を受ける女性に配付しているベトナム版母子健康手帳の活用研修を保健省より講師を招いて実施した。妊娠経過から出産、産後の母と子のケア、また子供が5歳になるまでの成長の記録として、より効果的に活用できることを目指し、妊産婦の指導に関わるWHCの保健スタッフ計24名が参加し、母子健康手帳の意義と内容の理解、活用の実際についてグループワークを通して学びを深めた。
- ③ 緊急時搬送訓練の実施: 2017年11月、搬送先病院との連携強化を図るため、搬送体制の確認と緊急時の救急車までの移送のシミュレーションを実施し、緊急時対応に向けた保健スタッフの能力強化を図った。
- ④ 乳房ケア研修の実施: 2017年12月、産後のニーズが高い乳房ケアの技術向上指導の継続研修を実施した。ベトナムでは乳房ケアについての知識・技術が十分でなく、助産師による産後ケアとして体系的に研修が実施されていないため、1年次より継続して開催している研修の効果に対する反響は大きく、今期はWHCで勤務するスタッフ14名に加え、国立産婦人科病院より8名の保健スタッフが自費参加するに至った。(別添3. 乳房ケア研修報告概要 参

照)

## 2) 質のよい包括的 RH サービス提供モデルの構築と普及

### (1) 「女性の生涯にわたる健康のための質のよい包括的 RH サービス」ガイドの作成：

昨年に引き続き、プロジェクトでの経験に基づいた「女性の生涯を通じた健康を守る質のよい包括的 RH サービス」のモデル普及のための助産師用ハンドブックの制作を実施した。ベトナム助産師会が主体のワーキンググループによるワークショップを計4回開催し(別添4)、第2年次に作成した案をもとに、関係者からのコメントを反映して改訂を重ね、保健省母子保健局等、関係機関からの助言も得て最終版とした。2018年1月には、保健省母子保健局の監修により“女性の生涯にわたる包括的 RH サービスハンドブック”として製本印刷し、現場で働く助産師の参考となる、助産師のためのハンドブックが完成した。2018年1月末に開催した年次会合や経験共有・成果普及会合において、保健省、各省保健局代表者、ベトナム各地にひろがるベトナム助産師会各支部代表などに広く配付し、モデルの普及を図った。(別添4-3. 助産師ハンドブック完成版 PDF 参照)

### (2) 年次会合、経験共有・成果普及会合の開催：

2018年1月23~24日には、ベトナム助産師会の全国支部の代表や対象省の執行委員、フエ省保健局等関係者が一堂に会し、3年間の事業の活動、成果、学びを共有した。その上で、ベトナム助産師会が中心となり、プロジェクト終了後の事業の持続発展のための、具体的なアクションプラン(行動計画)を策定した。

2018年1月25日には、3年間のプロジェクト活動の成果の報告と共有、サービス提供モデルの普及、プロジェクトの持続発展を目的として、中央保健省、フエ省・クワンチ省・クワンビン省保健局、フエ人民委員会、各種連携病院、ベトナム助産師会全国17支部の執行委員等の関係機関、地域の女性連合や農民連合等の関係者計184名の参加を得て、経験共有・成果普及会合を開催し、事業終了時の調査結果や前述の助産師ハンドブック等の成果物の紹介・配付を含む、プロジェクトの成果・経験の共有と理解促進を図り、サービスモデル普及の基盤と事業の持続発展のための連携を強化した。今後は、現地パートナーであるベトナム助産師会により、プロジェクトの成果・経験に基づく包括的 RH サービスの提供およびモデル普及を継続し、事業の持続発展を目指す。(別添5. プロジェクト年次会合、経験共有・成果普及会合報告概要 参照)

## 2. 助産師能力の向上と、プロジェクト地域内の農村・遠隔地の女性の RH に関する知識の向上

### 1) 助産師能力の向上

#### (1) 指導者研修の実施：

1年次、2年次に続き、2017年4月にプロジェクト対象地域の省・郡病院等に勤務する医師・助産師計24名を対象に2週間の指導者研修を実施した。研修参加者は、プロジェクトで実施する農村遠隔地の助産師の研修で講師としての役割を果たすとともに、継続的に農村遠隔地のコミュニケーションヘルスセンター(CHC、村の保健所)に勤務する助産師の指導的役割を担う。本研修には、1年次より研修の講師として、ベトナム保健省および日本助産師会、実施団体のジョイセフより専門家を派遣し、ベトナム保健省の重点課題である助産技術・早期新生児ケアに加え、女性の人権と尊厳に配慮した妊産婦ケアの実現に向け

て、患者に寄り添うサービス（クライアントフレンドリーサービス）の推進、サービス環境の改善の手法としての5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣）を研修し、村の助産師へのより効果的な指導技術や具体的な方法などの習得を目指した。また、指導者研修の参加者は、勤務する病院施設内での保健サービスの質の改善を推進する役目を担うことも期待されており、参加者全員が指導者としての自覚を持ち、研修終了時にはそれぞれが作成したアクションプランを共有し、参加者による積極的な意見交換が行われた。

今期は、現場での教育・指導の充実やプロジェクト終了後の持続発展を目指し、郡レベル指導者（助産師）を対象に、四半期会合を実施し、各郡の実施報告と経験共有に加え、健康教育の模擬クラスを通して相互のネットワークを強化し学びを促した。

## (2) 農村遠隔地の CHC で勤務する助産師の研修の実施：

フエ省 8 郡、クアンチ省 5 郡、クアンビン省 2 郡、合計 15 郡の農村遠隔地の CHC で勤務する助産師を対象に、各 2 週間の助産師研修を計 5 回、各コース 20～24 名の助産師を対象に、3 年次合計 114 名に対して実施した。本研修は助産技術・早期新生児ケアを含む、包括的な RH サービスの知識や技能、新しい知識や技術の習得を目的とし、講義の他、グループワーク、ケーススタディやロールプレイ、生体模型を使用した演習、病院実習、実技試験を行った。本研修は、上記 (1) 指導者研修で育成された指導者を中心に、各省保健局、フエ中央病院、ベトナム助産師会からの講師の協力により実施し、助産師の知識・技術の向上を通じた CHC における RH サービスの質の向上を図った。

（別添 6. 助産師研修報告概要 参照）

## 2) アウトリーチ・サービス（出張クリニック）の提供

### (1) 地域へのアウトリーチ・サービスの継続

1・2 年次より継続し、WHC を拠点に WHC 保健スタッフによる農村・遠隔地でのアウトリーチ・サービスを計 20 村で実施した。計 2,407 名の女性に、婦人科健診、各種カウンセリング、通常村では行われていない超音波健診などの質の良い RH サービスを届けることができた。

### (2) 地域での啓発活動の実施

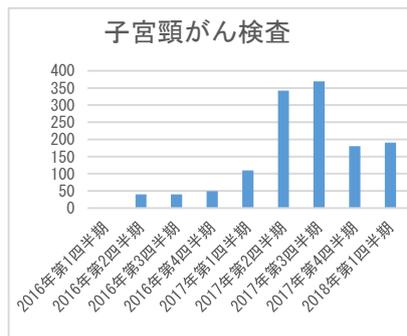
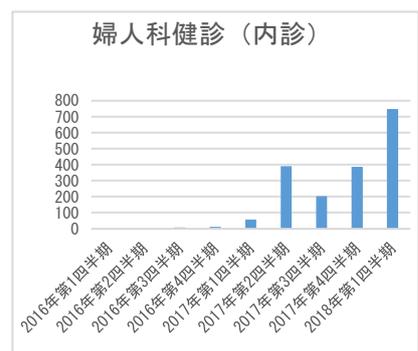
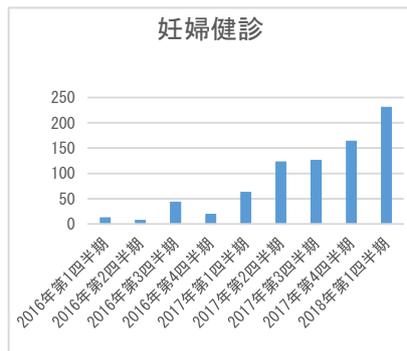
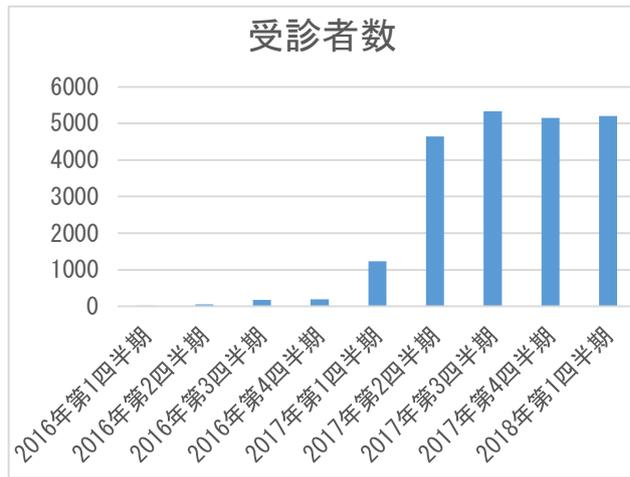
女性を中心とした住民の健康への知識や RH 知識の向上のため、上記アウトリーチ・サービスや郡レベル助産師によるモニタリング訪問で訪れた村において、健康教育による啓発活動を計 34 回実施した。健康教育の内容は、第 1 年次より実施してきた活動のフィードバックや、事前に聞き取りした村の女性のニーズ、当日の参加メンバーの傾向に沿った、妊産婦ケア、母子の健康と栄養、家族計画、感染症、更年期ケア等をテーマとした。計 2,917 名の村の女性や住民が参加し、毎回積極的な発言や質問が出された。

（別添 7. アウトリーチ・サービス、健康教育報告概要 参照）

## 3) 女性の RH 知識に関する聞き取り調査の実施

2017 年 10 月～12 月、第 1 年次に聞き取り調査を実施したフエ省 8 郡、クワンチ省 2 郡、合計 10 郡から各 2 コミューン、計 20 カ所の農村・遠隔地のコミュニティにおいて、計 300 人を対象に構造的質問紙を使用した RH 分野の知識についての調査を実施した。この結果を、

	<p>第1年次の聞き取り調査の結果と比較し、女性のRH知識の変化について分析した。さらに、各省の村で働く助産師のグループ討論会や、保健省関係者へのインタビューなどを通して、3年間の活動全体の成果や具体的な効果について評価分析を行った。(別添8. プロジェクト終了時調査報告[英文] 参照)</p> <p>2018年1月には、経験共有・成果普及会合で調査の分析結果をもとにした、プロジェクトの成果と経験からの学び、持続発展に向けた各機関連携の重要性の認識を共有した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>プロジェクトの活動は全体を通してほぼ順調に進捗し、3年次の「WHCにおける女性の生涯を通じた包括的RHサービスの提供を継続し運営の安定化を図る、WHCを拠点とした助産師研修やアウトリーチ・サービスの実施による農村遠隔地での質のよいRHサービスの提供や活動の継続的実施の基礎づくり、プロジェクトの成果・経験に基づく包括的RHサービスのモデルの普及と持続発展を目指す」という目標は、正常分娩件数を除き、おおむね達成した。「期待される成果」ごとのまとめは以下の通りである。</p> <p><b>成果1. <u>女性の生涯にわたる健康を向上するための包括的RHケアサービスの提供</u></b></p> <p>1年次には女性健康センターの建設と設備を完了、2年次前期には液状廃棄物処理施設と救急車両の設置を完了し、WHCにおいて包括的RHサービスを提供するための基盤を整備した。3年次は、WHCにおける包括的RHサービスとして当初計画していた以下のすべてのサービスが健康保険適用下で提供できるようになった(家族計画サービス、妊産婦ケア、婦人科健診、乳がん検診と予防指導、子宮頸がん検診、各種血液検査、更年期ケア、思春期RHケア、正常分娩サービス、産後ケア、乳房ケア、健康・栄養相談等、各種カウンセリング)。</p> <p>WHCの来院者数は、センター開所後より徐々に伸びており、各種サービス件数が増加している。健康保険制度の適用後である2017年3月以降、より多くの利用者が、少ない負担でWHCでのサービスを受けることが可能となり、第3年次の総受診者数は、前年の12倍に増加した。ベトナムでは女性の死因の上位に子宮頸がんや乳がんが上がっており、より多くの女性が疾病の予防を含む包括的なRHサービスにアクセスできるよう地域での健康教育等を通じて啓発活動を実施した。また、助産師による健康教育やカウンセリングなどで取り上げている更年期の変化について、潜在的ニーズに加え、女性たちの認知向上をはかったため、子宮頸がん健診や、更年期ケアのサービスを受けた女性の数は、前年より各353%、260%の増加を示した。</p> <p>WHCでの各サービスの利用者数は以下の通りである。</p>



WHC の保険適用の認可については、プロジェクト開始後に、プロジェクト計画当初は必要とされなかった新たな規定についてフェ省保健局からの指導があり、必要な対応のため WHC の保険適用施設認可までに想定以上の期間を要した。そのため、保険適用下でのサービスの開始に大幅な遅れが生じ、正常分娩と産後ケアについては 2017 年 7 月からの提供開始となった。サービス開始時期が当初計画より 1 年半遅れたことにより、目標としていた出産件数には及ばなかったが、プロジェクト終了までに 2 件の出産があり、現在までに数件の出産予約を受けている。WHC で出産したすべての女性が、産後健診、産後の乳房ケア、保健指導やカウンセリング等を受け、保健スタッフの接遇、サービスの質の良さや、ケアに対する安心感を持ったとの声が聞かれている。2016 年 3 月から開始している家族計画、更年期カウンセリング、婦人科検診などの RH サービスに対しても利用者からは好評を得ている。省内外の保健関係機関などからの視察訪問も多く、WHC の提供する RH サービスに対する関心が高いことがわかる。また、WHC の研修施設としての役割に対して省保健局から高く評価されており、保健省母子保健局からも国家認定研修施設としての認可への提案を受け、申請準備を整えた。

WHC での安全で安心な医療サービスを提供するため、WHC スタッフの能

力向上のための研修も随時実施した。第1年次に実施した分娩ケア研修の実習先病院監督者の助言に基づいた、妊娠時のリスク判断、周産期における合併症や緊急時の診断技術の向上のための継続研修を、ベトナムの産婦人科最上位レファラル施設である国立産婦人科病院で実施した。周産期ケア研修には、WHCの助産師4名が参加し、知識や技術の向上のみならず、助産師や医療スタッフの申し送りや業務管理についても学ぶことができた。周産期ケア研修で計画した活動計画のフォローアップや、緊急搬送時の対応における支援体制の確認、搬送訓練等により、連携病院との協力体制も強化できた。

同じく第1年次より実施してきた、産後のニーズが高い乳房ケアの技術向上指導の継続研修では、研修の効果が広く認知され、その反響が大きく産後ケアにおけるニーズが高かったことが判明した。今年度の実習には、WHCで勤務するスタッフ14名に加え、国立産婦人科病院より8名の保健スタッフも自費による参加が実現した。保健省母子保健局もその効果に注目し、プロジェクト終了時の成果普及会合では、WHCでの乳房ケア研修への強い関心と全国展開への期待が表明された。今後も、WHCでの女性の尊厳に配慮した質のよい包括的RHサービスを提供し、他地域のモデルとして積極的に役割を果たしていくことが、WHC保健スタッフの間で認識・自覚されている。

本事業では、質のよい包括的RHサービスの普及促進のために、プロジェクトでの経験をまとめた助産師のためのガイド作成を行った。今期は、第2年次に作成した案をもとに、関係者からのコメントや議論を通じて改訂を進め、保健省母子保健局等、関係機関からの助言も得て最終版を完成した。プロジェクト終了時には、保健省、各省保健局代表者、ベトナム各地にひろがるベトナム助産師会各支部などに広く配付し、助産師会の全国ネットワークを通じた全国への普及を図った。ガイド作成の検討会やワークショップなどを通して、「女性の生涯を通じた健康を守る包括的RHサービス」の考え方の認知や、前述の乳房ケアの効果並びに研修を通じた助産師の継続教育の必要性などについての理解を深めると同時に、保健省母子保健局より「積極的に効果の検証をして保健省のRHサービスの方針にも活かしたい」とのコメントを得ることができた。

## **成果2. WHCスタッフによる遠隔地への定期的なアウトリーチ・サービス**

第3年次には、農村遠隔地へのアウトリーチ・サービスを20村で実施し、各回平均241人の女性に、質のよいRHサービス（婦人科健診、家族計画サービス、各種カウンセリング、超音波健診等）を届けることができた。3年間の活動で合計8,020人の女性がそれぞれの村でサービスを受け、「普段聞けないことでも質問できる雰囲気だった」、「スタッフみんなが笑顔で優しく嬉しかった」、「薬のことや都市の病院で受けられる検査などについて丁寧に説明してくれて安心した」等の、プロジェクトの目指すクライアントに優しく質の高いサービスに対する満足度を示すコメントが聞かれた。

サービス提供には、WHC保健スタッフを中心に、郡レベル助産師（ベトナム助産師会メンバー）やCHCの助産師と連携して行い、地域でサービスを提供する助産師の能力強化も図ることができた。アウトリーチ・サービスは、今後もベトナム助産師会が主体となり継続し、農村遠隔地の女性に質のよいRHサービスを届けていく。

## **成果3. 助産師能力の向上と、プロジェクト地域内の農村遠隔地の女性のRHに関する知識の向上**

助産師能力の向上を目的とし、プロジェクトでは1年次より研修の講

師となる資格を持つ医師・助産師を対象に指導技術ならびに専門知識や技術の向上を図る指導者研修を実施した。この指導者研修で育成された指導者が研修講師となり、農村遠隔地のCHCで勤務する助産師対象の研修を実施し、知識・技術の向上を通して、CHCにおけるサービスの向上を図った。第2年次以降の研修は、すべて、第1年次に建設されたWHCの研修施設で実施した。

① 指導者研修：

第3年次は、保健省母子保健局により24名の研修修了者が指導者として正式に認定された。参加者は、研修後のアクションプランとして、それぞれが勤務する施設での経験共有や健康教育講座の開催、環境改善やカウンセリングの質の改善などを掲げており、主体的かつ実践につながる取り組みにすることができた。

プロジェクトで実施したフォローアップでは、農村部の一部の郡では、指導者研修参加者が郡主催で思春期や更年期ケアに関する健康教育の機会をCHC助産師に提供する活動を実施し、現場指導強化やCHC助産師の動機づけ向上につながり、CHCに来院する村の女性も増えているとの報告がされた。

② 助産師研修：

今期は、5回の研修を実施し、計114名の助産師が受講した。3年間で計12回の研修を開催し、対象地域の農村遠隔地のコミュニティで働く助産師のほぼ100%にあたる合計253名の助産師が研修に参加した。各回、研修に参加した助産師の意欲は高く、知識・技術には目覚ましい向上が見られた。保健省の基準にもとづいて実施しているプリテスト、ポストテスト結果の比較では、正答率は研修前平均37%であったものが、研修終了後には平均96%へと変化し、各回の受講者の全員が合格することができた（次表参照）。

研修前後の合格率・正答率（平均）の比較（合格ライン：正答率75%）

		プリテスト	ポストテスト
第8回助産師研修 (フエ省対象者24名)	合格率	0%	100%
	正答率	23%	97%
第9回助産師研修 (フエ省対象者23名)	合格率	0%	100%
	正答率	38%	98%
第10回助産師研修 (クワンチ省対象者24名)	合格率	0%	100%
	正答率	47%	96%
第11回助産師研修 (クワンチ省対象者23名)	合格率	0%	100%
	正答率	37%	96%
第12回助産師研修 (フエ省対象者20名)	合格率	0%	100%
	正答率	42%	92%

研修全体を通して、助産技術・早期新生児ケアに関する知識の習得、経験の豊かな講師の指導による出産介助・出産前後のケアの質の向上を目指した演習は、助産師としての自信や動機づけに繋がった。また、特にカウンセリングスキルの学びは、現場でのケアに活かしていきたいという意見が多く聞かれた。思春期の妊娠や産後うつ、望まない妊娠など

の事例でのカウンセリングや、レファラルの際の具体的な対処などについて、農村部や山岳地など異なる環境での課題もグループワークで経験を共有し、多くの議論をしたことで、各自の課題をより深く認識し、今後の活動への自信につながった様子がみられた。助産の専門技術やRHに関する知識の向上、都市部の最新の医療情報をアップデートすることが、現場での課題の解決に不可欠であることが認識された。

研修後の助産師へのモニタリングでは「数年間お産を取り上げていなかったが、研修のおかげで、すべてのケアを一人で正確に安全にでき、スムーズな出産介助が出来た」、「助産師としての自分に自信が持てるようになった」、「妊婦健診や予防接種キャンペーンなどでの簡単な問いかけにも、情報を詳しく説明できるようになったためか、カウンセリングに来る患者数が増えている」との声が聞かれた。

保健局からは、研修受講後の助産師の良好な変化や、郡からの活動報告などから、本プロジェクトによる研修の前向きな効果を指摘されており、継続したCHCで働く助産師による包括的なRHサービス、特に正確な知識と技術に裏打ちされた質の高いRHケアやカウンセリングなどが期待されている。今後の助産師のネットワークの更なる強化やWHCの研修への期待が表明された。

#### **成果4. プロジェクト対象の遠隔地域の女性のRHに関する知識の向上**

第3年次は、農村遠隔地でのアウトリーチ・サービス時に、計20村のCHCにおいて啓発活動を実施した。1回の訪問につき平均84名の参加を得、計839名の女性が参加した。加えて、プロジェクト終了後の啓発活動の継続を見据えた取り組みとして、郡レベル助産師主体のCHC助産師との協働による健康教育も計14村で開催され、上記と合わせ、啓発活動は、合計34村で行った。今年度は、中部地方を襲った台風や洪水の被害などの影響で、アウトリーチ・サービス開催スケジュールの変更を余儀なくされたが、郡レベルからCHCまで保健機関の連携協力により、無事に予定した村での開催をすることができた。

3年間で、合計約2900名の女性や住民が健康教育に参加した。啓発内容は、事前に聞き取りした村の女性のニーズに沿って、妊産婦ケア、母子の健康と栄養、家族計画等をテーマとしたもので、村の女性からは普段できない質問が多く出された。また、啓発活動後に行われたアウトリーチ・サービスでの検査や、個人カウンセリングなどへの積極的な参加につながった。

2017年11月に、プロジェクト活動の成果指標の一つである農村遠隔地の女性のRH知識の向上を、第1年次に実施した聞き取り調査の結果と比較し評価するため、アウトリーチ・サービス活動継続中ではあったが、エンドライン調査として聞き取り調査を実施した。妊婦健診や家族計画など、一般的に言葉として知っている女性は、ベースライン、エンドライン調査ともに高く90%を超えているが、エンドラインの時点では、妊娠の兆候や妊娠中の危険な徴候、家族計画の方法など、より多くの女性はその内容を具体的に挙げる事が出来ている。妊婦健診の内容（目的）の一つとして「妊娠の確認」をあげていた女性が17%減少し、「母体の健康状態の確認」という正しい項目を上げた女性の数が30.8%増加した。望ましい妊婦健診の回数についても、国の指針にある4回以上と回答した女性の割合が35.4%増加した。産後健診を知っている女性が78.4%増加し、その内容（目的）や、望ましいタイミングについて、「わからない」と回答していた女性の数が大きく減った（ともに61.3%減、32.7%減）。更年期について知っていると回答した女性も全体で19.4%、山岳地域で

	<p>は 62%増加し、更年期の症状についても知っているという回答した女性の割合が増えている。一般的に更年期の症状として知られている月経不順や、ホットフラッシュでも大きく増加しているが、睡眠時の発汗、動悸、不安、性行時の痛みなどをあげた女性も増えた。多くの聞き取り項目で女性の RH に関する知識が向上しており、特に山岳地域の女性の RH 知識の向上は顕著であった。</p> <p><b>「持続可能な開発目標 (SDGs)」の該当目標からの視点</b></p> <p>WHC を拠点とした女性の生涯を通じた質のよい包括的な RH サービスの提供、アウトリーチ・サービスや健康教育の提供、研修による助産師の能力向上を通じた農村・遠隔地の女性や住民への RH サービスの提供により、プロジェクト対象地域の女性が RH サービスを利用し、より身近で RH に関する情報や知識にアクセスでき、自身の知識に基づいた決定を行うことができるように支援を行うことで、SDGs の目標 3 (健康的な生活の確保と福祉の促進: ターゲット 3.7 すべての人々が RH サービスを享受できる)、および、目標 5 (ジェンダーの平等と女性/女兒の能力強化: ターゲット 5.6 性と生殖に関する健康及び権利 (SRHR) への普遍的なアクセス) の達成に貢献できた。</p> <p>同時に、WHC が健康保険適用施設として機能していくことは、すべての人々が適切で質のよい基本的な保健サービスを、支払い可能な費用で受けられるという UHC の理念や、ベトナム政府が推進する国民皆保険を通じた UHC の達成 (SDGs3.8) に即している。さらに、3 年間にわたり関係機関との連携を確立し実施してきた、指導者の育成、助産師研修の実施や、アウトリーチ・サービス、モニタリング訪問等による助産師の能力向上のための各活動の成果として、農村・遠隔地域の助産師の働きに変化が現れており、サービスの質やカウンセリングスキルなどの助産師能力が向上したことで、対象郡である農村・遠隔地域での「質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス (SDGs 3.8)」の向上に寄与している。</p> <p>WHC は今後も、生涯を通じた女性の健康を支援するための包括的なケア、安全で安心できる質のよい医療・RH サービスの提供、費用負担の軽減、農村遠隔地でのアウトリーチ・サービスなど、地域に幅広くサービスを届け、あらゆる側面から、UHC 達成の一翼を担い、妊産婦死亡、新生児死亡の低減につながる活動を行う (SDGs 3.1、3.2)。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>WHC が健康保険適用施設として正式に認可されたことで、予定したすべての RH サービスの提供を開始した。活動拠点である WHC では、ベトナム助産師会により保健スタッフが配置され、プロジェクトの活動やサービスの提供に関して主体としての役割を果たしてきた。プロジェクト終了後はベトナム助産師会が WHC の運営を担っていく。建物や機材の適切な維持管理についても合意をし、ジョイセフとの間に覚書を締結した。今後の WHC への一層の集客と安定した運営を図っていくために、ベトナム助産師会が主体となり、以下の 5 つの柱からなる行動計画を策定し、今後はその計画に沿って活動を継続する。</p> <p>ベトナム助産師会によるプロジェクトの持続発展のための行動計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 女性の生涯にわたる質のよい包括的 RH サービスモデルの維持と向上 (WHC のサービス提供とアウトリーチ・サービスの継続)</li> <li>(2) WHC の国家認定研修センターとしての登録</li> <li>(3) 助産師研修開催の継続</li> </ol>

- (4) 女性の生涯にわたる質のよい包括的 RH サービスにおける、助産師の重要な役割についての、助産師ハンドブックを通じた普及  
(5) 保健省・各省保健局との連携の継続

また、保健省・各省保健局との定期的な情報交換や連携による、政府ガイドラインにそったサービスの提供を前提に、新たなニーズへの対応を積極的に行っている体制を整えた。実施団体は、事業終了後もベトナム保健省、ベトナム助産師会、日本助産師会等の関係機関との連携協力体制を維持し、活動の継続を図るとともに、モニタリングを実施していく。

上記行動計画に基づいた、持続発展への具体的な計画は、以下の通り。

(1) 女性の生涯にわたる質のよい包括的 RH サービスモデルの維持と向上 (WHC のサービス提供とアウトリーチ・サービスの継続)

思春期から更年期までの女性の生涯を通じた「包括的 RH サービス」提供のモデルとして認知されるためにも、WHC 施設全体において女性にやさしく安全で安心して出産できる環境を整え、人権に配慮したクライアントに寄り添う質のよいサービスの提供を継続する。

WHC では緊急時のサービスの安全を確保するため、緊急時搬送に関する合意文書を連携病院と交わしている。女性や住民が保健施設での出産に期待する理由の一つに、安全性が一番に上がっていることから、救急車両の配備を含む緊急搬送体制の整備は不可欠である。今期は、連携部署との支援・搬送体制の確認と強化も継続的に図れるよう、現場責任者レベルでの顔合わせや搬送訓練なども実施して体制を整えた。

「包括的 RH サービス」のうち、女性の尊厳に配慮した出産ができる出産介助サービスの提供は、WHC の重要なサービスの一つとして計画で位置づけている。新設された保健施設では、口コミによる評判が病院選択の意思決定に最も重要な情報源である。WHC での正常分娩サービス開始の認知拡大のための広報活動には力を注いでいたものの、3 年次のサービス開始後から第 1 件目の出産ケースまでに約半年の時間を要した。女性(住民)が WHC を優先出産施設として選択し、正常分娩サービスが軌道に乗るには、さらにある程度の時間が必要と予測しているが、現在までに数件の出産予約も受け付けており、徐々に認知が広がっていることが伺える。継続して、産前健診などの機会を活かし、WHC での出産の需要喚起を図っていく。地域の開発が進み WHC 周辺の人口や往来が増加していることから、今後の需要の増大を見込んでおり、質の高い RH サービスに係る広報強化に努めていく。

また、WHC スタッフによるアウトリーチ・サービスは、農村・遠隔地にサービスを届けるというベトナム助産師会の理念に繋がる活動であり、プロジェクト終了後も、ベトナム助産師会の活動の一環として継続する。ベトナム助産師会は、20 年前にも日本大使館よりアウトリーチ・サービスの車両や携帯用超音波診断器を供与されており、その丁寧な管理により、車両法規定に基づき廃車となる最後まで現場で女性へのケアを届けるために使用し続けてきたという実績がある。2018 年 1 月からは、ベトナム助産師会が、在ベトナム日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力の支援を受け、農村遠隔地へのアウトリーチ・サービス(出張診療)の活動が動き出している。

(2) WHC の国家認定研修施設としての登録

本事業では、都市と農村での保健サービスの質の格差や都市部の保健医

療従事者の患者への配慮が十分でない対応など、様々な課題を抱えるベトナムの保健システムの向上のために、WHCでの研修活動を通じて助産師の能力向上を図ってきた。このWHCの研修施設としての役割に対して、保健省やフエ省保健局より高評価を受けており、ベトナム保健省母子保健局からも国家認定研修施設としての登録への提案を受けた。プロジェクト終了時の成果普及会合においても、保健省は、国内のすべての医療従事者の継続教育に力を入れており、WHCがベトナム全国の助産師に対して公式な研修を実施できる国の認定の研修施設としての認可を推奨することを表明された。WHCが今後も、質がよく、女性に優しい保健サービスと、助産師の継続教育という両面において、「包括的RHサービス」モデルをベトナム全国に普及させていく担い手となることで、事業の持続発展を目指すこととした。2018年6月には登録申請に向けて準備を整えつつある。

### (3) 助産師研修開催の継続

プロジェクトで実施した助産師研修では、参加した助産師の知識・技術の向上は期待以上の成果を見せている。そのため、WHCでの助産師研修の実施に関して、事業終了後も保健省・省保健局との連携強化をはかり、公的医療機関の助産師に対する指導者研修、助産師研修を継続していく。事業実施団体は、移行期間として2年間、助産師研修の開催にむけた後方的な支援を継続する。上記(2)の認可が下りた後には、保健省・省保健局主催の研修の開催に加え、WHCで開催する研修は助産師資格継続のための認定研修として認められているため、研修を受講する助産師への大きな動機づけともなる。また、本事業で研修した指導者・地域助産師を含め、今後も習得した知識・技術レベルを維持し、現場に活かされるよう、研修後の助産師の活動のモニタリングや、現場での指導を省・郡レベルの助産師との連携を強化し、継続的に行えるようにする。

### (4) 女性の生涯にわたる質のよい包括的RHサービスにおける、助産師の重要な役割についての、助産師ハンドブックを通じた普及

持続発展性への準備の一環として、プロジェクトでは、活動全体を通して「女性の生涯にわたる健康のための質のよい包括的RHサービス」の考え方が、保健省のRHサービスの方針にも活かされるよう働きかけてきた。「包括的RHサービス」の考え方の認知や、前述の乳房ケアの効果並びに研修を通じた助産師の継続教育の必要性などについての理解を深めると同時に、保健省母子保健局より「積極的に効果の検証をして保健省のRHサービスの方針にも活かしたい」とのコメントを得ることが出来た。

3年次には、保健省母子保健局の監修を受け、現場で働く助産師の参考となるプロジェクトの経験に基づいたハンドブックの制作を完了した。これまでの検討会やベトナム助産師会の全国支部の委員(助産師)を招いた年次会合、関係機関を招いた成果普及会合等を通して、「女性の生涯を通じた健康を守る包括的RHサービス」の考え方についての理解を深めており、このモデルの地域的拡大・普及のため、ベトナム助産師会の全国ネットワークを通して配付し、さらに多くの助産師への普及を図った。この助産師ハンドブックをツールとして、今後もベトナム助産師会が主催する全国大会等で、3年間のプロジェクトの成果や経験を共有し、WHCをモデルとした包括的RHサービスの普及と持続発展を目指していく。